

目標は何かにベストを尽くして下さい。

幸也 城谷 甲本 鳥

2020. 1. 18~1. 24

今週の

倫理

1月のテーマ | 目標を立てる

1169号

新年にあたって「今年の目標」を掲げた人も多いでしょう。会員企業の中には、社内教育の一環として、社員それぞれが立てた目標を職場に掲げているところもあります。目標の内容は、業務を遂行する上で、自分自身の課題を成し遂げるためのものが多いようです。また、社会人の重要な仕事のひとつとして体調管理が挙げられますが、自身の健康面を目標に、掲げる人もいます。今週は、こうした目標を達成するためのポイントを二つ提示してみたいと思います。

「目的」を再確認することです。では、「目的」と「目標」はどのように違うのでしょうか。国語辞書『大辞泉』によると、目的は「実現しようとして目指す事柄。行動のねらい。めあて」と書かれています。続いて目標は「行動を進めるにあたって、実現・達成を目指す水準」とあります。企業においては、「目的」は企業の目指すもの、理念などが挙げられます。そして、その実現のために掲げられる年度や月次の売上などの水準を定めた、より具体的ものを「目標」ととらえることが多いようです。

目的を実現するために設けるのが目標ということになります。現実的には、職場において、自身の掲げた目標を確認するために、じつくりと向き合う時間は多くはないかもしれません。だからこそ、新年という節目の時に、今年一年の目標を定めてみることに意義があるのです。

企業における目的、つまり「我が社は事業を通じて何を目指すのか」「何のために私たちは働くのか」といったことに要素として欠かせないのが「利他性」といえます。これは、世のため人のためという意味合いです。企業は、そのために品質



未知の領域に向かって 自身を奮い立たせよう

やサービスの向上や革新をしつつ、事業を拡大し、企業を永続的に活動させていくことを目指しているのです。こうした企業の目的は、そこで働く一人ひとりの使命感や働き甲斐のバックボーンにもなるのです。個々人の人生の目的というところも少々大げさになるかもしれませんが、企業と同様に利他性という要素が重要になってきます。

目標を達成するための二つ目のポイントは、信念を培うことです。倫理運動の創始者・丸山敏雄は、信念について次のように述べています。

「人の世の交わりの本は『信ずる』ことであり、事をなすの根本の力は信念である。決心の強いが弱いかによって、仕事の成否がきまるが、決心ということは、今までなかった事を、こうしようという信念を定めることである。「ちかい」(誓)というものは、人と人が、又人が人以外のものと結びあつて、信念をかためることをいう」(『万人幸福の葉』)

目標とは、これまで成し遂げたことのなかったことであり、いわば未知の領域です。困難なことに遭遇すると、決心が揺らぐこともあるでしょう。それでもぶれずに、つまりは、信念を確立するために、(決意したことややり遂げよう)と日々、誓いを立てることです。職場で目標を掲げること、は、こうした決意や誓いにほかならないのです。目標を掲げて、何かを決意すると、それをさせまいとするような逆風が吹く、といったことがあるものです。そうしたことも、自分の決意のほどを試されていると受け止め、勇気を奮い立たせるのです。そのためには、毎朝、始業前の静寂の中で、決意や誓いを新たににして、確立していきましょう。目標に対して、決心を強く深く固めていけば、自身に確固たる力が湧いてくることでしよう。